

木質バイオマス利用促進事業について

◎視察地 北海道芦別市・芦別市役所・木質バイオマス開発協同組合
チップ生産工場・芦別温泉スターライトホテル

(文責 上條俊道)

芦別市役所水野農林課長より説明を頂く。

平成 22 年度に芦別市地域新エネルギービジョンを策定。その中で木質バイオマス事業は、7つの重点プロジェクトの中でも最重要と位置付けられた。市域の 88%が山林という地域特性を活かし、総務省の緑の分権改革の採択を受け、木質バイオマスの有効利用にかかわる実証実験に着手、結果を判断して事業化に向けて検討を行い平成 24 年基本設計、26 年ボイラー設置、稼働となった。

ボイラーは 900 k w と 700 k w の 2 台、スイスシュミット社製。夏と冬で必要エネルギーを考慮してバックアップ機能も考え 2 台に分割。

導入効果については灯油価格の変動に伴い、効果金額は大きく左右されるとの説明であった。ちなみに平成 26 年度灯油価格が 78 円/リットルでは 860 万円ほどの燃料節約となり、27 年度灯油価格 50 円/リットルでは 1600 万円ほどの持ち出しとなった。

現状では当時第 3 セクター方式で運営していたスターライトホテルでの導入のみであり、木質チップの販売、消費先が少ないため、採算規模は拡大できていない。

森林成長分で木質チップの製造量は十分賄えるとの話。材料買取価格は 4800 円～5000 円/t とのことである。

個別の家庭、事業所等へのストーブ、発電の展開は考えておらず、バイオマス発電への展開は今後の課題。

間伐材のみならず、製品材木も利用している。灰の利用は融雪剤などとしても利用。その後、チップの製造車両 (2850 万円)、スターライトホテルのチップボイラーを視察、説明を受ける。

破砕機のメンテナンスは自前で可能とのことであり、ボイラーも大きなメンテナンス費用は不明。(外国産製品であり、まだ事例がない)

製造から消費まで自前でそろえてあり、森林資源の活用、雇用の創出などには寄与することが可能だが、事業自体の費用対効果はハードルが高く、本市への導入は、解決すべき課題が多い。